

# 2008年度の環境会計

荒川化学グループでは、総合的効果対比型環境会計をツールとして、環境にかかるコスト、効果、物量を把握、管理していきます。

## 2008年度 実績集計結果

- (1) 2008年度の投資額は1億1,400万円で、2007年度比大幅に増えています。これは、臭気対策として新たに脱臭設備を設置したためです。また、管理活動コストとしてCOD計の更新、ベンゼン分析計の設置に、1,300万円の投資を行いました。
- (2) 環境保全コストの費用面では、世界的な景気後退の影響を受けて、生産量の減少に伴い事業エリア内コスト（公害防止、地球環境保全、資源循環コスト）の費用は、すべて減少

しました。一方、研究開発コストは、景気の動向に関わりなく環境配慮型製品の研究開発を進めており、金額では若干増加しました。

- (3) 環境保全効果でも、世界的な景気後退の影響を受け減少した結果、SOx、NOx、COD、SSなど環境負荷の指標は、すべて減少しました。
- (4) 経済効果では、生産量が減少した結果、有価物の発生量、廃棄物排出量が減少し費用も減少しました。

### ■環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	主な取り組みの内容	2007年度		2008年度		関連頁
		投資額	費用額	投資額	費用額	
事業エリア内コスト		47	631	100	590	
①公害防止コスト	公害防止設備の導入・維持管理	(25)	(271)	(88)	(265)	P13-14
②地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	(16)	(34)	(6)	(30)	P13
③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理	(6)	(326)	(6)	(295)	P15
上・下流コスト	包装容器のリサイクル	0	161	0	105	—
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持	0	45	13	47	P8
研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発	0	195	0	209	P11-12
社会活動コスト	地域における環境保全活動	0	17	1	15	P26
環境損傷コスト	大気汚染負荷量賦課金	0	4	0	3	—
合計		47	1,053	114	969	—

### ■環境保全効果

効果の内容および効果を表す指標	環境負荷量		2007年度比環境負荷増減量
	2007年度	2008年度	
SOx排出量(t)	14.7	11.9	-2.8
NOx排出量(t)	33.7	29.2	-4.5
水使用量(千m <sup>3</sup> )	1,551	1,443	-108
COD量(t)	23.1	16.5	-6.6
SS量(t)	7.5	5.8	-1.7
CO <sub>2</sub> 排出量(t)	54,871	51,603	-3,268
有価物の売却量(t)	2,061	2,007	-54
廃棄物排出量(t)	5,583	4,764	-819
廃棄物埋立量(t)	740	594	-146

### ■環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位：百万円)

効果の内容	金額	
	2007年度	2008年度
廃棄物のリサイクルによる事業収入	85.1	47.9
省エネルギーによるエネルギー費の削減	44.2	70.4
省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	39.0	31.3
合計	168.3	149.6

### 集計について

- 集計期間：2008年4月1日から2009年3月31日まで
- 集計範囲：荒川化学工業株式会社、ペルノックス株式会社、高圧化学工業株式会社
- 集計参考：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」および(社)日本化学工業協会 日本レスポンシブル・ケア協議会「化学企業のための環境会計ガイドライン」を参考にしました
- 集計の考え方
  - 減価償却費は財務会計上の金額
  - 投資金額は集計期間の検収ベース金額
  - 環境保全活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境保全に関わる割合を適切に按分して算出
  - 研究開発コストは、個々の研究テーマごとに環境保全係数を決め、環境配慮型製品の研究開発に費やした研究開発時間をベースに算出
  - 効果は物量および金額で集計。「みなし効果」「偶発的効果」は算定せず